# 水道料金改定(案)(概要版)

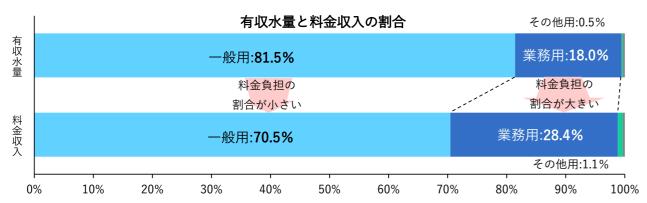
#### 1. 海田町の水道料金について

#### 1.1 海田町の水道料金体系

- 水道事業の経営は、地方公営企業法に基づき独立採算制で行っています。
- 代表的な料金体系である2部料金制(基本料金及び従量料金)を採用しています。
- 契約種別では用途ごとに、従量料金では水量区画ごとに料金に格差があります。

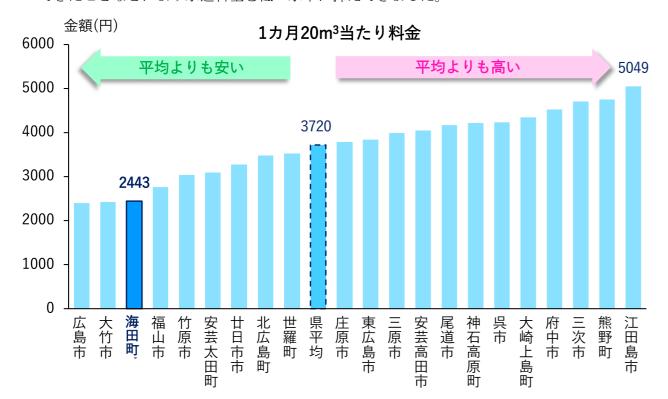
### 1.2 用途別料金の状況

● 有収水量の用途別割合は、一般用 81.5%、業務用 18.0%(令和 6 年度実績)ですが、料金収入における一般用の割合は 70.5%であり、一般用よりも業務用の料金負担の割合が大きくなっています。

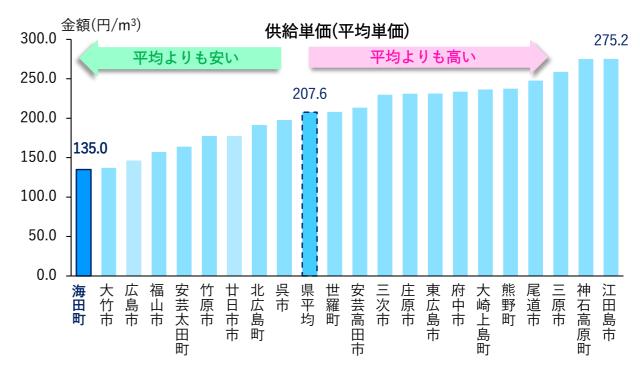


#### 1.3 水道料金

- 海田町の口径 13mm、1 カ月当たり 20m³ 当たりの料金は県内で3番目に安価となっています。
- 蟹原浄水場や国信浄水場を建て替えず維持修繕によって使用し続けてきたことや職員数を削減してきたことなどにより水道料金を低い水準に抑えてきました。



● 海田町の1m³当たりの供給単価(平均単価)は県内で最も低い水準です。



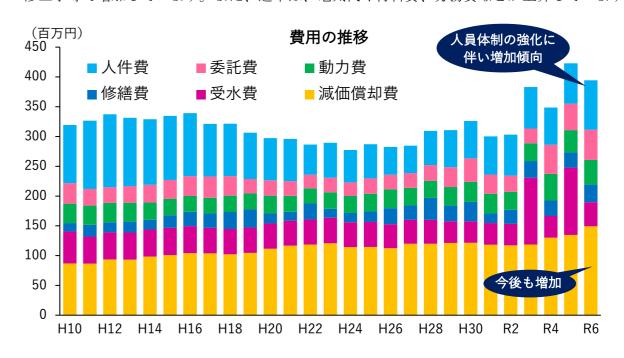
#### 2. 海田町の財政状況

#### 2.1 収入の状況

● 令和2年度に料金改定を行い収益の増加を図りましたが、節水機器の普及などにより、減少傾向が 続いています。

#### 2.2 費用の状況

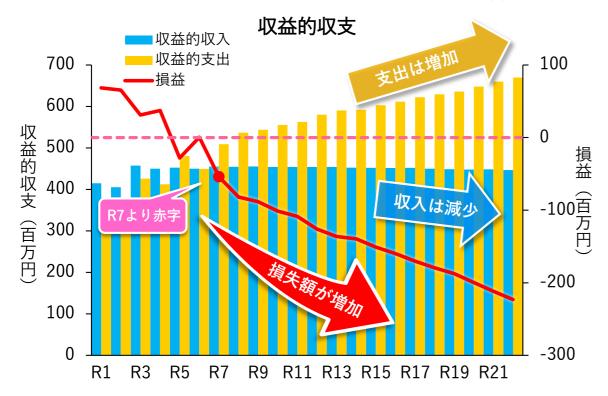
▶ 人件費は施設の更新事業や災害時対応のための人員体制の強化に伴い増加傾向です。施設の工事費などを法定耐用年数に合わせて年度ごとに費用として配分する減価償却費は、必要となる施設の改修工事等で増加しています。また、近年は、電気代や材料費、労務費などが上昇しています。



## 3. 財政計画

## 3.1 現行の料金水準の場合

- 令和7年度以降は赤字となり、損失額は増加していきます。
- 資金残高(内部留保資金)は、**令和 10 年度以降はマイナス**に転じ、**事業継続が困難**になります。



資金残高(内部留保資金)(千円)

R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15
164,969	4,716	-131,652	-284,690	-445,234	-624,284	-785,853	-936,648
R16	R17	R18	R19	R20	R21	R22	
-1,096,505	-1,266,608	-1,445,929	-1,633,317	-1,833,145	-2,044,796	-2,267,835	

#### 3.2 必要な料金水準を確保する場合

シミュレーションの条件

- ▶ 資金残高は給水収益の半年分(約2億円)を下回らないこと。
- ▶ 企業債残高は給水収益の3年分(約12億円)を上回らないこと。
- ▶ 料金改定後の収益的収支は黒字を原則とするが、一時的には赤字も許容する。

## ケース1:条件をすべて満たす場合

今後は基幹管路の更新といった大規模事業があり、この条件をそのまま適用すると次表のように令和8年度の改定率が34%と著しく大きくなり料金(使用者負担)の期間的公平性が図られない面があります。

条件を全て満たす場合のシミュレーション結果

	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15
平均改定率	34%	-	-	_	_	11%	_	_
損益(千円)	50,319	44,276	30,686	23,109	5,078	51,159	46,538	34,615
資金残高(内部留保資金)(千円)	267,803	224,838	220,465	212,854	209,049	206,533	201,200	209,028
企業債残高対給水収益比率(%)	248.1	256.4	263.6	273.7	284.8	258.2	260.8	265.6
	R16	R17	R18	R19	R20	R21	R22	
平均改定率	-	-	11%	_	_	_	_	
損益(千円)	24,719	14,090	64,365	55,215	41,729	29,423	16,157	
資金残高(内部留保資金)(千円)	202,675	209,153	206,743	210,856	200,618	210,231	202,001	
企業債残高対給水収益比率(%)	269.5	276.1	246.7	244.1	240.3	241.8	243.2	
	損益(千円) 資金残高(内部留保資金)(千円) 企業債残高対給水収益比率(%) 平均改定率 損益(千円) 資金残高(内部留保資金)(千円)	平均改定率 34% 50,319	平均改定率 34% - 損益(千円) 50,319 44,276 資金残高(内部留保資金)(千円) 267,803 224,838 企業債残高対給水収益比率(%) 248.1 256.4 R16 R17 平均改定率 損益(千円) 24,719 14,090 資金残高(内部留保資金)(千円) 202,675 209,153	平均改定率 34%   損益(千円) 50,319 44,276 30,686 資金残高(内部留保資金)(千円) 267,803 224,838 220,465 企業債残高対給水収益比率(%) 248.1 256.4 263.6 R16 R17 R18 平均改定率 11% 損益(千円) 24,719 14,090 64,365 資金残高(内部留保資金)(千円) 202,675 209,153 206,743	平均改定率 34%	平均改定率 34%	平均改定率       34%       -       -       -       -       11%         損益(千円)       50,319       44,276       30,686       23,109       5,078       51,159         資金残高(内部留保資金)(千円)       267,803       224,838       220,465       212,854       209,049       206,533         企業債残高対給水収益比率(%)       248.1       256.4       263.6       273.7       284.8       258.2         R16       R17       R18       R19       R20       R21         平均改定率       -       -       11%       -       -       -         損益(千円)       24,719       14,090       64,365       55,215       41,729       29,423         資金残高(內部留保資金)(千円)       202,675       209,153       206,743       210,856       200,618       210,231	平均改定率       34%       -       -       -       -       11%       -         損益(千円)       50,319       44,276       30,686       23,109       5,078       51,159       46,538         資金残高(内部留保資金)(千円)       267,803       224,838       220,465       212,854       209,049       206,533       201,200         企業債残高対給水収益比率(%)       248.1       256.4       263.6       273.7       284.8       258.2       260.8         R16       R17       R18       R19       R20       R21       R22         平均改定率       -       -       11%       -       -       -       -         損益(千円)       24,719       14,090       64,365       55,215       41,729       29,423       16,157         資金残高(內部留保資金)(千円)       202,675       209,153       206,743       210,856       200,618       210,231       202,001

# |ケース2|:企業債残高の条件を緩和した場合

次に、企業債残高の条件を緩和して試算すると、令和 8 年度の料金改定率 25%で資金残高は 2 億円以 上確保できます。

企業債残高の条件を緩和した場合のシミュレーション結果

	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15
平均改定率	25%	-	_	_	_	19%	_	_
損益(千円)	15,287	9,255	-4,750	-12,722	-31,057	49,489	44,779	32,784
資金残高(内部留保資金)(千円)	232,771	215,885	224,176	219,634	202,124	206,958	207,828	207,552
企業債残高対給水収益比率(%)	265.9	287.4	305.1	324.1	340.8	289.6	293.9	297.6
								1
	R16	R17	R18	R19	R20	R21	R22	
平均改定率	-	-	12%	-	_	-	1	
損益(千円)	22,951	12,158	68,090	58,885	45,477	33,152	19,961	
資金残高(内部留保資金)(千円)	216,308	212,041	216,186	213,557	207,813	209,941	205,710	
企業債残高対給水収益比率(%)	304.7	309.8	275.2	271.2	267.7	267.5	269.0	

# ケース3:資金残高と企業債残高の条件を緩和した場合

さらに、資金残高と企業債残高の条件を緩和して試算すると、令和8年度の料金改定率20%で資金残高は1億円以上確保でき事業は継続できますが、大規模災害時には事業継続が難しく、また、令和18年度まで赤字が続き健全な経営とは言えない状況が続きます。令和8年度の改定率を低く抑えることは将来に負担を先送りすることになり将来世代の負担が大きくなり世代間の公平性が図れません。

資金残高と企業債残高の条件を緩和した場合のシミュレーション結果

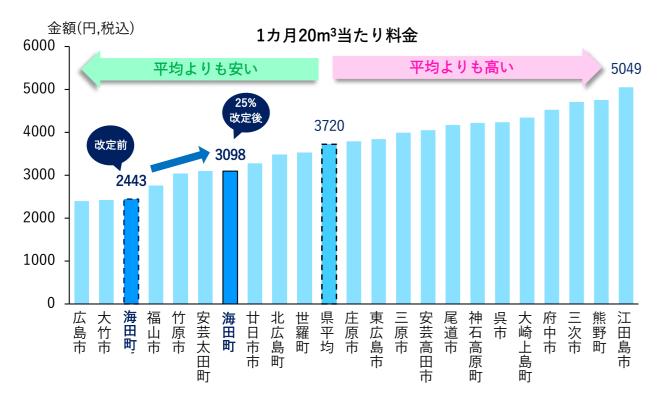
R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15
20%	-	-	-	-	20%	-	-
-4,185	-10,652	-24,395	-32,077	-50,356	31,197	26,501	14,352
257,499	205,506	170,052	144,875	107,212	105,789	111,957	116,611
286.5	305.6	318.9	338.4	355.6	301.8	310.5	318.7
R16	R17	R18	R19	R20	R21	R22	
-	-	18%	-	-	-	-	
4,352	-6,405	79,689	70,559	57,232	44,913	31,785	
106,140	106,459	107,941	103,067	105,550	103,758	107,972	
326.0	335.5	280.8	274.8	270.8	268.1	269.1	
	20% -4,185 257,499 286.5 R16 - 4,352 106,140	20%     -       -4,185     -10,652       257,499     205,506       286.5     305.6       R16     R17       -     -       4,352     -6,405       106,140     106,459	20%     -     -       -4,185     -10,652     -24,395       257,499     205,506     170,052       286.5     305.6     318.9       R16     R17     R18       -     -     18%       4,352     -6,405     79,689       106,140     106,459     107,941	20%         -         -         -           -4,185         -10,652         -24,395         -32,077           257,499         205,506         170,052         144,875           286.5         305.6         318.9         338.4           R16         R17         R18         R19           -         -         18%         -           4,352         -6,405         79,689         70,559           106,140         106,459         107,941         103,067	20%         -         -         -         -           -4,185         -10,652         -24,395         -32,077         -50,356           257,499         205,506         170,052         144,875         107,212           286.5         305.6         318.9         338.4         355.6           R16         R17         R18         R19         R20           -         -         18%         -         -           4,352         -6,405         79,689         70,559         57,232           106,140         106,459         107,941         103,067         105,550	20%         -         -         -         20%           -4,185         -10,652         -24,395         -32,077         -50,356         31,197           257,499         205,506         170,052         144,875         107,212         105,789           286.5         305.6         318.9         338.4         355.6         301.8           R16         R17         R18         R19         R20         R21           -         -         -         -         -           4,352         -6,405         79,689         70,559         57,232         44,913           106,140         106,459         107,941         103,067         105,550         103,758	20%         -         -         -         20%         -           -4,185         -10,652         -24,395         -32,077         -50,356         31,197         26,501           257,499         205,506         170,052         144,875         107,212         105,789         111,957           286.5         305.6         318.9         338.4         355.6         301.8         310.5           R16         R17         R18         R19         R20         R21         R22           -         -         18%         -         -         -         -           4,352         -6,405         79,689         70,559         57,232         44,913         31,785           106,140         106,459         107,941         103,067         105,550         103,758         107,972

# 4. 料金改定の概要

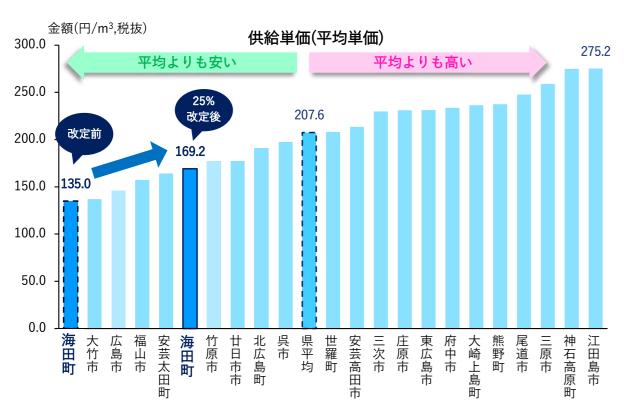
以上のことから令和8年度の平均改定率は25%とすることが妥当であると考えられます。

次に、使用する用途や水量によって支払う料金に格差が生じ特定の使用者に負担が偏っている現在の料金体系を段階的に是正するように補正を行い、料金表を作成します。

改定後も海田町の口径13mm、1カ月当たり20m3当たりの料金は県内で6番目に安価となっています。



また、改定後の海田町の1㎡当たりの供給単価(平均単価)は県内で5番目に低い水準です。



● 代表的な使用水量での料金比較では、月に8㎡使う1人暮らしの世帯では277円、20㎡使う家族4人の世帯では700円の値上げになります。一般用の改定率が業務用より高くなっているのは、用途や使用水量による料金格差を段階的に縮小していくためです。

#### 下水道使用料を含めた代表的な使用水量での料金比較

(円)(1カ月分・消費税10%込み)

		一般用					業務用						
	区分	単身	者	夫婦2人	家族4人	家族6人	小規模事 業所	学校	工場	スーパー	製造業	社会福祉 施設	
	メーター 口径	13mm	13mm	13mm	20mm	25mm	50mm	75mm	50mm	50mm	75mm	40mm	
	使用 水量	5m <sup>3</sup>	8m³	15m <sup>3</sup>	20m <sup>3</sup>	30m <sup>3</sup>	100m <sup>3</sup>	200m <sup>3</sup>	300m <sup>3</sup>	500m <sup>3</sup>	1000m <sup>3</sup>	2000m <sup>3</sup>	
	改定前	806	842	1,700	2,535	4,186	21,921	49,210	74,501	127,081	259,530	520,291	
小米州女	改定後	1,027	1,119	2,191	3,235	5,276	26,452	59,022	88,272	150,092	306,302	612,306	
水道料金	改定額	221	277	491	700	1,090	4,531	9,812	13,771	23,011	46,772	92,015	
	改定率	27.4%	32.9%	28.9%	27.6%	26.0%	20.7%	19.9%	18.5%	18.1%	18.0%	17.7%	
下水道 使用料	改定なし	759	759	1,320	2,178	4,620	27,945	68,975	114,735	206,255	453,205	772,205	
	改定前	1,565	1,601	3,020	4,713	8,806	49,866	118,185	189,236	333,336	712,735	1,292,496	
上下水道 合計	改定後	1,786	1,878	3,511	5,413	9,896	54,397	127,997	203,007	356,347	759,507	1,384,511	
	改定率	14.1%	17.3%	16.3%	14.9%	12.4%	9.1%	8.3%	7.3%	6.9%	6.6%	7.1%	

● 県内事業体の水道料金改定の動向について、平成 26 年度以降、13 事業体が水道料金改定を実施しています。

#### 水道料金改定の動向

水道料金改定の動向										
事業体名	H26以降 改定実績有無	H26以降 改定回数	料金改定率							
広島市	×	_	_	_	_					
呉市	0	3	<b>10.7%</b> (H26)	9.5% (R2)	<b>6.6%</b> (R6)					
竹原市	0	1	29.0% (H28)	_	_					
三原市	0	1	28.7% (H30)	_	_					
尾道市	×	_	_	_	_					
福山市	0	1	▲0.4%(H27)	_	_					
府中市	0	1	<b>20.0%</b> (H29)	_	_					
三次市	0	3	<b>17.8%</b> (H29)	15.0% (R4)	10.5% (R5)					
庄原市	0	1	8.0% (H28)	_	_					
大竹市	0	1	11.2%(R5)	_	_					
東広島市	0	1	▲9.1% (R4)	_	_					
廿日市市	×	_	_	_	_					
安芸高田市	0	2	10.0% (H30)	9.9% (R5)						
江田島市	×	_	_	_	_					
海田町	0	1	15.0% (R2)							
熊野町	×	_	_	_	_					
北広島町	0	1	<b>10.0%</b> (H31)	_	_					
世羅町	×	_	_	_	_					
大崎上島町	0	1	<b>6.6%</b> (R4)	_	_					
安芸太田町	×	_	_	_	_					
神石高原町	×	-	_	_	_					
_	〇=13事業体	改定回数18回	_	_	_					